

アクション&レガシープラン 2016 中間報告及び 東京2020大会教育プログラム「よい、ドン！」について

～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう～



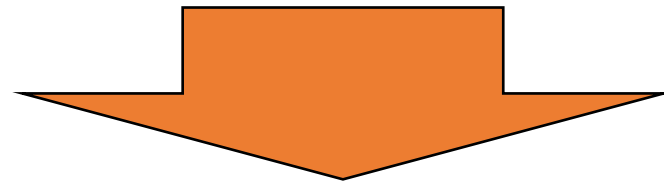
2016年4月

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

アクション & レガシープラン2016 中間報告について

アクション&レガシープランとは

- ▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく。【アクション】
- ▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、聖火リレーのように、次代を担う若者や子供たちに継承していく。【レガシー】



- ▽ 『アクション&レガシープラン』は、一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにした成果を未来に継承する【レガシー】ためのプラン。

アクション&レガシープラン中間報告 文化・教育の概要

基本的な考え方

- 文化・教育の各種取組を通じて、より多くの人々を東京2020大会に巻き込み、大会成功の機運を醸成

残すべきレガシー

文化		教育	
日本文化の再認識と 継承・発展	次世代育成と 新たな文化芸術の創造	オリンピック・パラリンピックや スポーツの価値の理解	多様性に関する理解 (障がい者への理解・ 国際理解)
日本文化の世界への 発信と国際交流	全国でのあらゆる人の 参加・交流と地域の活性化	主体的・積極的な参画と大学連携 (将来の国際社会や地域社会での活動に、 主体的、積極的に参加できる人材の育成)	

文化の祭典としてあらゆる人々が参加する東京2020大会文化プログラム(仮称)を展開
多様な教育メニュー全体をパッケージ化した教育プログラム(愛称: ようい、ドン!)を展開

文化におけるアクション例	教育におけるアクション例
<ul style="list-style-type: none"> ■伝統芸能と最先端技術やポップカルチャーを融合させた新たな芸術表現の創造 ■小・中学校における伝統文化・伝統芸能鑑賞体験授業の充実 ■学生、若手クリエイターを対象として公募による新たな発想を取り入れたプログラムの展開 ■国内外のアーティストを受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業 ■アール・ブリュットの普及推進 ■文化芸術の力を活用して「街づくり」や「福祉」「教育」等の課題解決型事業の展開 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■オリンピック・パラリンピック教育を積極的に進めていく学校の指定 ■オリンピック・パラリンピアン・外国人アスリート等の学校への派遣 ■企業や団体等の提供する教育メニューの教育活動への活用 ■障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充や、特別支援学校の児童・生徒と小・中・高校生との交流を充実 ■1校1国運動のような学校単位での国際交流 ■大会運営ボランティアや大会に関連する活動への参画 ■大学連携の枠組みを通じた取組の推進 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

教育プログラム「ようい、ドン！」 について

【目 的】

- 小中高等学校や大学を中心にプログラムに基づく取組を全国に展開することにより、あらゆる世代をオリンピック・パラリンピックに巻き込む。
- オリンピック・パラリンピックをきっかけに、オリンピック・パラリンピックの価値や多様性への理解、社会への主体的・積極的な参画を促進する。
- 東京2020大会時に活躍する多くの若い世代を育成し、未来へ継承する。

【愛 称】

「ようい、ドン！」

考え方

- ✓ 日本語では、学校における徒競走のスタートや、何か物事を始めるときに使う言葉
- ✓ 子供の頃から親しみがあり、シンプルなフレーズである
- ✓ 大会ビジョンの実現に向けて、次世代を担う子供や若者がみんなですターを切っ
て皆で一緒にやろうという思いを込めている

- リオデジャネイロ大会後に開始（2016年4月から東京都において先行実施）
- 「東京2020フェスティバル（仮称）」期間には、子供たちにも様々な参画の機会を提供

【教育プログラムのコンセプト】

レガシー①：オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解

- オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値を通じて、将来に向かい、自信と勇気を持った人材を育成

レガシー②：多様性への理解

- 障がい者への理解を通じて、我が国における共生社会の実現を担う人材を育成
- 海外の文化や社会に関する理解を通じて、日本人としての自覚と誇りを持って、国際社会で活躍する人材を育成

レガシー③：主体的・積極的な参画

- 東京2020大会での活躍の経験を通じて、将来の国際社会や地域社会での活動に、主体的、積極的に参画できる人材を育成

レガシー実現に向けたアクション

- レガシーの実現に向けて、多様な教育メニューをパッケージ化して、教育プログラムとして全国に展開

【教育プログラムの全体像：1】

教材の提供

計画的・継続的なオリンピック・パラリンピック教育の展開

- ⇒東京都の先行実施・検証
- ⇒Tokyo2020オリンピック・パラリンピック教育校（仮称）の推進

大学連携等の取組

パートナーや地域と連携した取組

Basic, Input

小中高等学校を中心に、オリンピック・パラリンピックの価値の理解を深める

Advance, Output

大学連携等の仕組みにより、大学等の高等教育機関の専門性を活かし、地域での課題解決につながるような取組を展開する

Contribution, Movement

パートナー企業や地域の公益的な団体と連携し、社会への貢献やオリンピック・パラリンピックムーブメントを高める取組を広範に実施する

※現在検討中のもの

【教育プログラムの全体像：2】

Tokyo2020オリンピック・パラリンピック教育校(仮称)の展開

- ✓ 各自治体で、小・中・高等学校等をオリンピック・パラリンピック教育を体系的に推進する学校を推薦
- ✓ 組織委員会において、自治体が推薦し申請のあった学校等を都道府県単位でオリンピック・パラリンピック教育校に認証

<取組の事例>

- 取組の成果に応じて、優秀な学校を表彰しインセンティブを与える

<教材の提供>

- 文部科学省や東京都が作成した教材を公式教材として認証
 - O V E P (注) を素材として全国で活用推進
- (注)IOCが提供する、オリンピック・パラリンピックに関する学習教材

※現在検討中のもの

【教育プログラムの全体像：3】

大学連携等の取組

Tokyo2020



○○ university

- 大学等の高等教育機関や学生が企画した事業を教育プログラムとして認証

<取組の事例>

- 学生に対するオリンピック・パラリンピック教育の実施
- スポーツ、芸術等大学の専門性を活かした大会のサポート
- 運動会など、地域行事や祭り等における地域の拠点としての活動
- 障がい者スポーツ大会等における運営の支援
- Tokyo2020と連携している大学同士の共同イベントの実施 等

※現在検討中のもの

【教育プログラムの全体像：4】

パートナーや地域と連携した取組

Tokyo2020



× × Co., Ltd.

- スポンサーや地域コミュニティが企画した事業を教育プログラムとして認証

<取組の事例>

- パートナー企業が実施するオリンピック・パラリンピック教育への協力
- パートナー企業と連携したインターンシップ教育の実施
- パートナー企業と共同で学生向けの競技種目フォトコンテストの実施
- 地域における清掃活動や防災訓練、福祉施設でのボランティア活動 等

※現在検討中のもの

【今後のスケジュール】

2016年10月

2020年

拡大期間

教育プログラム「ようい、ドン！」の展開

✓ Tokyo2020オリンピック・パラリンピック教育校（仮称）の選定

⇒ 学校独自の取組を積極的に支援

✓ WEBサイトを開設し、教材やO V E Pの提供を開始

✓ 大学連携や地域・パートナーと連携した取組の加速

アニュアルイベント（○周年、○日前）や国際スポーツ大会（ラグビーWC）の機会を捉え、教育プログラムを盛り上げ⇒ アスリートとの交流やボランティア機運の醸成

フェスティバル期間

東京2020フェスティバル
（約12週間）

東京2020
オリンピック

パラリンピックムーブ
メントプログラム

東京2020
パラリンピック

- ✓ トーチリレーや選手村、競技施設等と連携した教育プログラムを集中的に展開
- ✓ 大会におけるボランティア活動への参加

Rio
2016